

新潟県に災害をもたらした主な気象事例

平成30（2018）年2月4日から13日にかけての大雪と強風

強い冬型の気圧配置による大雪、強風 ～多数の人的被害や交通障害～

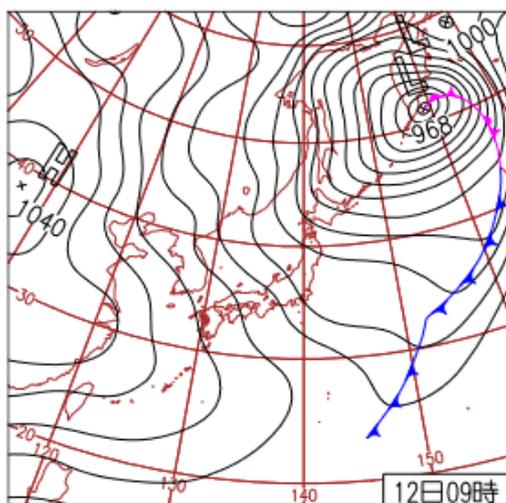
【概要】

平成30（2018）年2月4日から8日および11日から13日にかけて、北陸地方の上空約5,000メートルで、氷点下33度～39度の強い寒気が断続的に流れ込み、日本付近は強い冬型の気圧配置が続いた。

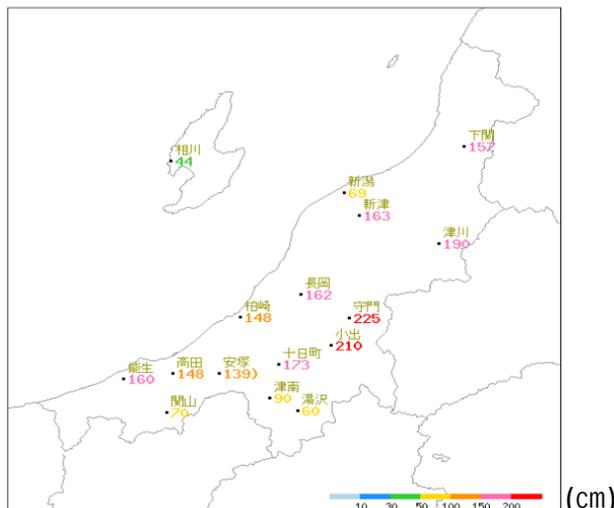
新潟県では、寒気が流入するたびに降雪が強まり、4日0時から13日24時までの期間日積雪差の合計は、魚沼市守門で225センチ、新潟市新津で163センチ、上越市高田で148センチの大雪となった。また、最深積雪は、魚沼市守門で345センチ、長岡で145センチ、糸魚川市能生で131センチ、上越市高田で129センチ、柏崎で95センチ、新潟市新津で86センチなどとなった。また、強い冬型の気圧配置に伴い強い風が吹き、新潟市新津では日最大瞬間風速23.0メートルを観測し、当時の2月の極値を更新した。

この大雪と強風などにより、鉄道の運休・遅延、航空機や船舶の欠航、高速道路の通行止めなど交通障害が発生した。また除雪作業中の事故などにより17名の死者や多数の負傷者が出た。

（被害状況：新潟県防災局危機対策課、新潟日報より）



地上天気図（2月12日9時）



2月4日から13日の期間日積雪差の合計



守門（魚沼市）の積雪の深さの推移